

生きものとの 緑豊かなまちを 守るために

都心へのアクセスが良く、自然環境も豊か。自然と街が調和した住環境は武蔵野市の大きな魅力の1つです。世界規模での環境破壊や、生態系の保全が課題となる今、私たちのまちの自然とその未来について少しだけ考えてみませんか？

「独歩の森」の名で親しまれる境山野緑地の風景。住宅街の中に生い茂る雑木林は、周囲の景観や空気を気持ちよくしてくれるだけでなく、さまざまな生きものたちの憩いの場にもなっています。

生きものの豊かな環境が、暮らしの支えに

多様な生きものとそれを支える緑の保全



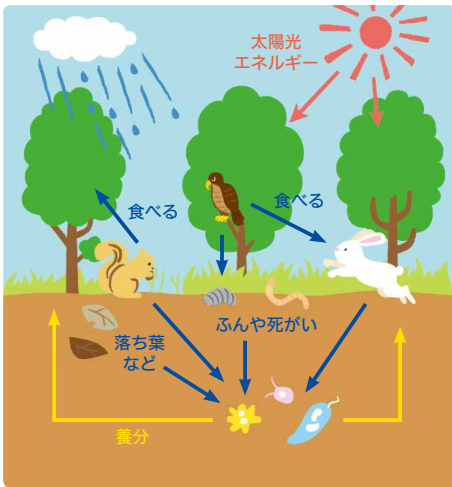
生きものと環境の多様性

動物や植物、そのほかすべての生きものは互いに関わりあって生きています。例えば、花をつける植物は昆虫に花粉を運んでもらい、昆虫はその花から蜜をもらいます。動物は植物を食べ、動物のふんや死がい（死骸）は微生物が分解し、それが植物の栄養となります。このように「さまざまな

生きものがつながっていること」を生物多様性と言います。また、多様な生きものが支え合って生きるには、その生活の基盤となる森林や池、川辺などの自然環境の多様性も大切です。地域の自然を守ることが、地域の多様な生きものを守ることにつながるのです。

多様な生きものと環境を守ることは、現代の人類に共通した課題として注目されています。市では、昭和46年の第一期長期計画から「緑のネットワーク計画」を掲げ、早くから緑豊かなまちづくりに取り組んできました。このため、多様な規模の公園や住宅の庭木など、さまざまな自然が緑道や水辺でつながり、生態系ネットワークを構築するための原型ができています。

平成29年には「生物多様性基本方針」を策定し、都市の緑・水辺とその生態系を守り、人と自然が調和する本市らしいまちづくりを推進しています。市内にどんな自然があり、どんな生きものがあるでしょうか。この機会に一度目を向けてみませんか？



豊かな生きものと緑がもたらす恩恵



教育や文化

子どもたちの健全な教育には豊かな自然と十分に触れられる機会が大切です。また、まちと自然が調和した美しい景観、身近な自然の中でのレジャー活動などは、人々の心と文化活動を豊かにします。



健康や防災

公園・緑地やまちに点在する身近な緑は、快適なだけでなく運動する場としても優れ、健康促進に役立ちます。また、災害時に延焼を食い止め、地域の緊急避難場所となるなど防災の機能も担っています。



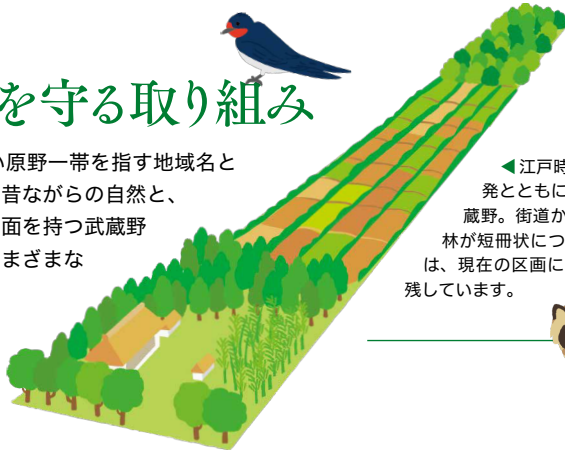
市内産農産物や特産品

都市化が進む武蔵野市でも、さまざまな農作物が生産され、私たちの食卓を彩り豊かにしてくれています。農業の変遷は、気候・植生の変化、文化・まちの歴史的な移り変わりを現在に伝える貴重な手がかりにもなります。

武蔵野市らしい、 生きものと緑・水辺を守る取り組み

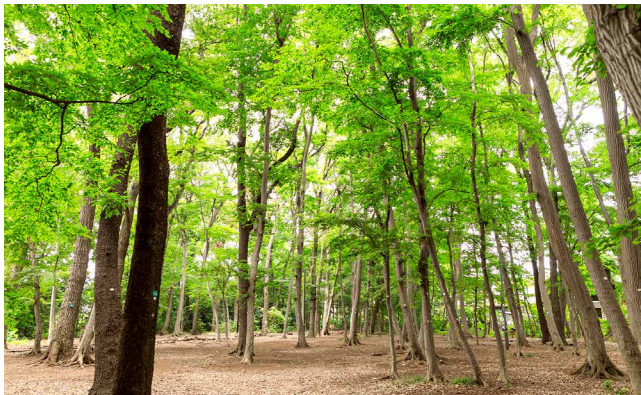
市の名前である「武蔵野」は、関東の広い原野一帯を指す地域名として古くから使われてきました。武蔵野の昔ながらの自然と、現代に即した都市型の自然。この2つの側面を持つ武蔵野市らしい豊かな緑と生態系を守るため、さまざまな取り組みを推進しています。

◀江戸時代の上水道の開発とともに切り開かれた武蔵野。街道から家、畑、雑木林が短冊状につらなるまち並みは、現在の区画にも随所で痕跡を残しています。



雑木林の保全のために

国木田独歩が著作『武蔵野』で描いた雑木林は、江戸時代以降の農村生活に必要なクヌギやコナラを人々が植え、利用してきたものです。生活の変化で雑木林は激減しましたが、「境山野緑地」の雑木林の維持のため、市民団体も保全活動に参加しています。



美しくよみがえる仙川

仙川は昔から降雨時のみに流れる川を人工的に開削した水路でした。平成10年から仙川を魅力的に再整備するリメイク事業を始め、自然石を使った護岸に改修した場所では、昆虫や鳥が水辺に集まる様子も見られます。



かいぼりによる成果

井の頭池は昭和30年代から湧水が減り、水も濁り、その後外来魚も増えてしまいました。池の水を抜いて、手入れをする「かいぼり」の取り組みが、地域団体と行政の協働で平成25年度から始まり、その活動によって、生きものの豊かな池の姿が戻りました。

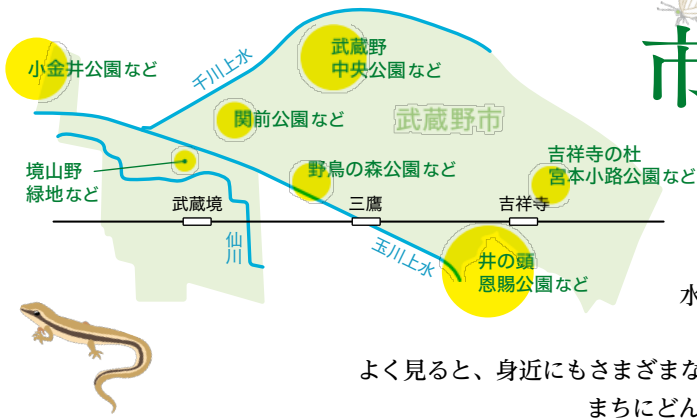


畑と果樹園を守る努力

農地は生産の場であるだけでなく、緑豊かな景観を維持することや、防災機能を有し、その多面的機能は市民生活に欠かすことができません。市でも平成28年に「武蔵野市農業振興基本計画」を策定し、市民の豊かな生活を彩る農地の保全を推進しています。



市内のさまざまな生きものたち



市内の自然は、大小さまざまな公園が緑道や水辺でつながった緑と水のネットワークを形成し、都市の中にもそれぞれの生態系を保っています。よく見ると、身近にもさまざまな生きものが暮らしていることに気づくはず。まちにどんな生きものがあるのか、その一部を紹介します。



ツバメ



ツミ

市内で見つかる動物

これまでの調査で、市内には多くの動物が生息していることが確認されています。



オナガ



カルガモ

この誌面は「出かけて探して見つけよう！武蔵野市の自然」などを参考に制作しています。同冊子については環境政策課（Tel. 0422-60-1841）までお問い合わせください。



ヒグラシ

カナカナと呼ばれることもあるセミだよ



ホンダタヌキ



アズマモグラ

身近な公園などでもモグラの穴が見つかるよ



モンシロチョウ



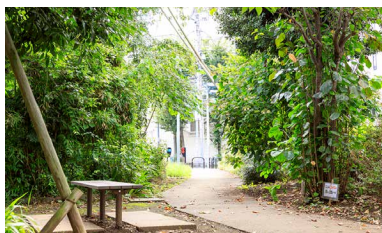
シオカラトンボ



ニホントカゲ



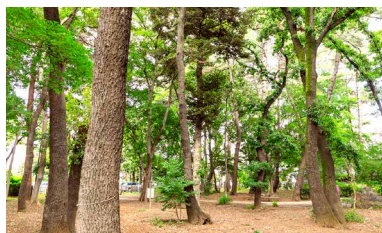
アズマヒキガエル



吉祥寺の杜 宮本小路公園

(吉祥寺東町 1-17)

公園には珍しい竹林や大木を生かした空間づくりが特徴。多彩な植栽があり、四季折々の表情を楽しめます。



野鳥の森公園

(西久保 1-30)

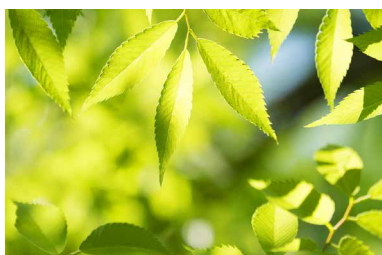
雑木や松の林が形成され、野鳥が集まります。ベンチに座って鳥の声を聴くと森にいたような心地を味わえる公園です。



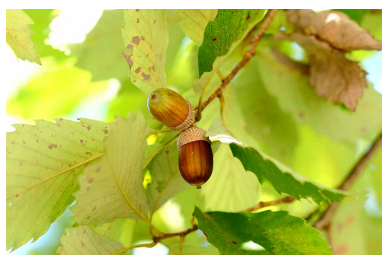
関前公園

(関前 3-14)

水辺に集まる虫や鳥たちを観察できる公園です。夏には、池のかいぼりも兼ねた自然観察会も行っています。



ケヤキ



コナラ

樹木

ケヤキ、コナラ、イヌシデなどは、市内でもよく見られる身近な樹木です。ほかにも街路樹や公園でさまざまな樹木を観察できます。



アカマツ



イヌシデ



クサギ



タチツボスミレ

草花

草花は公園だけでなく、民家の生け垣や庭先でも多様です。観察するときは許可をもらうなどマナーを守りましょう。



ノカンゾウ



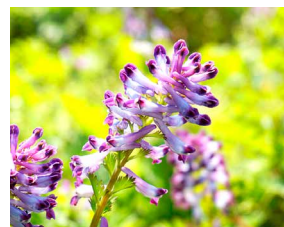
ウバユリ



カラスウリ



ネジバナ



ムラサキケマン

ふれよう、 学ぼう、 参加しよう



一人ひとりの関心が
まちの自然を守ります

まちのさまざまな生きものを守って
いくには、彼らが暮らす自然とその多
様性を保全することが重要です。

武蔵野市は標高50〜65mの平たんな
台地上にあり、約11平方kmの面積があ
ります。この市域面積のうち、緑に覆
われている面積は約24%で、住宅の庭
など民有地が14%あまり(平成28年度)。
市民が育て、維持する緑地が大きな割
合を占めています。

また、各家庭での緑化活動、公園の
美化・手入れなど、武蔵野市では市民
の活動による自然環境保全への貢献が
大きいことも特徴です。皆さん一人ひ
とりの関心と行動が、一層豊かなまち
の未来につながっているのです。

日々、自然を楽しむ 気持ちが未来のタネに

生きものや緑への関心と行動の機会を少しだけ増やしてみましょう。
その小さい変化が、やがて未来のまちの大きな財産につながります。



身近な場所の緑化

家や職場など、身近な場
所に緑を増やしましょう。
緑豊かな空間は、心に安
らぎを与えてくれるなど、
さまざまな恩恵を得るこ
とができます。



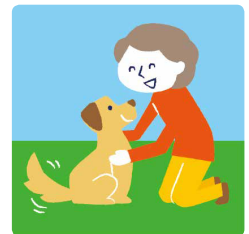
イベントや 講座への参加

市や市民団体が開催するさ
まざまな自然環境に関する
イベントに参加してみま
しょう。知識や観点を学ぶ
と、自然の楽しみ方もぐっ
と深まるかもしれません。



自然を楽しむ工夫

生きものマップや本誌を
持って、まちを散歩しま
しょう。普段目にしてい
た木や昆虫の名前を知る
だけでも自然への親しみ
が高まるはずですよ。



ペットの飼育 には責任を

飼育できなくなったペッ
トを放すと地域の生態系
に悪影響を与えることが
あります。ペットは最後
まで責任ある飼育をお願
いします。

やがて地域から国へ、 地球へと広がる力に

地球上の自然はすべてつながっています。皆さん一人ひとりの小さい
活動は少しずつ積み重なって、地域、国、地球規模へと広がっていきます。

ごみを正しく分別し エネルギーの無駄遣いをしない

ごみのポイ捨てをやめ、油を排水口に
流さないようにすることは生きもの
のすみかを汚さないために大切なこと
です。また、ごみの分別やリサイクルは
資源やエネルギーの無駄遣いを見直す
ことでもあり、地球温暖化防止に貢献
し、生態系を守るにつながります。



商品を選ぶときには 生きものや環境への取り組みも考慮

環境保全や生物多様性に配
慮した商品には各種の認証
マークがついています。こ
うしたラベルを目安に商品
を選ぶことは、生きものや
環境を守るにつながり
ます。



生きもの大好き！ さまざまな市民活動と自然教育

市内には、学校や事業者、市民団体などが中心となったさまざまな活動があります。生きものと自然を元氣いっぱい楽しむ活動の一部を紹介します。

生物観察会「むさしの鳥・蝶しらべ」

市で平成30年度、令和元年度に実施している「生物生息状況調査」に合わせて市民参加の生物観察会を開催。日本獣医生命科学大学野鳥観察サークル「カントリー」の協力で、双眼鏡の使い方や観察できる生きものについて詳しく学びました。



◀日本獣医生命科学大学ホームページ
【取材日誌】武蔵野市主催「むさしの鳥・蝶しらべ
～春の鳥・蝶を観察しよう！～」が開催されました

横河電機「YOKOGAWA グリーンボランティア」

横河電機の社員が中心となって取り組むボランティア活動。社内向けの自然観察会などを行うほか、市や地域のNPOと協力したイベントも実施。井の頭恩賜公園や玉川上水で近隣の小学生とその保護者を対象とした自然観察会などを開催しています。



写真／横河電機

緑ボランティア団体「生きものばんざいクラブ」

生きものばんざいクラブは、平成9年に「木の花小路公園」の新設にあたり実施されたワークショップに参加した市民が中心となって発足したボランティア団体です。木の花小路公園での清掃、花木や山野草の植え付け、除草、散水などを定期的に行っています。地域の大学生と連携した活動や「七夕祭り」を開催するなど、地域交流にも貢献していて、最近は市役所庁舎でのパネル展示など、みどりの愛護啓発活動にも積極的に取り組んでいます。今年度は、みどりの愛護団体として国土交通大臣表彰を受賞しました。



写真／生きものばんざいクラブ



精力的な活動が評価され国土交通大臣表彰を受けました。

公園清掃の様子。月2回、約30名の会員が楽しく活動しています。



生きものと共生できる
武蔵野市を目指して、
市民の皆さん
のご協力をお願いします

環境政策課 計画係 主事
小嶋正人さん



私たち人間は、そもそも、ほかの生きものなしに生きていけません。呼吸に必要な酸素は植物によって生み出され、食事にはほかの動植物が不可欠です。

そして、生存の基盤だけではなく毎日の生活でも、生きものから大きな恵みを受けています。季節や時刻の変化を告げる生きものの声や姿は、心にゆとりをもたらしてくれます。また、公園や街路樹は美しい景観をもたらすだけでなく、木陰をつくり、蒸散・蒸発などの作用で気温の変化を和らげてくれます。

しかし現代では、世界中の生きものとそれを支える自然環境が、土地

開発や地球温暖化の影響などで危機にひんしています。今後も生きものと自然の恵みを受け、共生していくために、私たちにできることは何でしょうか。

市では、計画的な緑地整備のほか、市民活動や農家の支援など、数々の取り組みを進めています。皆さん一人ひとりが自然を守る行動をすることが大切です。誌面で紹介したような日々の取り組みや市民活動に対して、少しでも関心・興味を持ったものがあれば、ぜひ行動してみてください。武蔵野市らしい生物多様性を一緒に守っていきましょう。

